我ら信濃川・大河津分水を愛する！
NPO法人 信濃川大河津資料館友の会
Vol. 38 平成27年 2 月 発行

私のおすすめスポット

会員　古澤 孝史（新潟市西区在住）

珍しい白いカタクリ

私のおすすめスポットは、手頃に登れる山について紹介します。

皆さん一度は登った事のある山と思います。分水から見ると左に国上山、中に弥彦山、右に角田山が見えますね、今回その角田山を紹介します。

遠くから見るとお椀を伏せたような姿で、秋の紅葉もすばらしい山です。この山の登山コースは数も多いが、どのコースを歩いても時間をかけず楽しく優しく登れる481.7mの山です。

花の百名山の一つに数えられ、春先の雪割草、カタクリ、山野草が咲く頃は県外からの来訪者も多く賑わう山です。

登山口の一つ、稲島（とうじま）コースは最も距離が短く、登山というよりハイキングとでもいうか、曜日に関係なく多くの方々が登って来ます。

登山口から 50 分程、階段を歩き一汗し登りつめると観音堂の広場に出ます。ここが角田山で一番見晴らしの良い所で、四季折々の越後平野を堪能しリラックス出来るパワーポイントです。

この広場から見る越後平野、春と夏は緑一色、秋には全面こがね色、冬は真白な雪原。また遠くに目をやれば守門岳、粟ヶ岳、菅名岳、五頭連峰などが手に取るように望め、冬の澄みきった空気の中、雪をいただく飯豊連峰、朝日連峰、時には磐梯山、鳥海山などが一望出来ます。

一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

飯豊連峰遠望（1 月上旬）

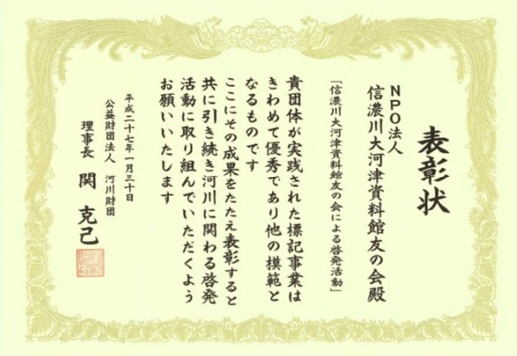
稜線の彼方に磐梯山を望む(写真:事務局)

「川に学ぶ全国事例発表会」で発表～河川整備基金助成事業優秀成果表彰受賞～

１月３０日(金)東京大学山上会館に於いて、「川に学ぶ全国事例発表会」(河川財団主催)が開催され、「大河津資料館友の会による啓発活動」について早川理事長が発表、総括ディスカッションにも登壇されました。理事長は翌 31 日の河川教育交流会にも出席し、全国の小中学校における川に学ぶ学習発表も聴講してきました。

平成 25 年度河川整備基金助成事業啓発活動部門 175 件の中から、優秀 7 事例の一つとして選ばれて発表、表彰されたもので、地道に続けてきた活動が評価されたものとして、誠に光栄に思います。NPO 発足間もない平成 24 年度から続いた助成は今年度で終了します。今後は自立した組織として、一層の飛躍が求められます。

早川理事長による発表


表彰状

NPO法人
信濃川大河津資料館友の会殿

「信濃川大河津資料館友の会による啓発活動」

貴団体が実践された標記事業はきわめて優秀であり他の模範となるものです
ここにその成果をたえ表彰すると共に引き続き河川に関わる啓発活動に取り組んでいただくようお願いいたします

平成二十七年一月三十日
公益財団法人　河川財団
理事長　関　克己

理事長だより～典生のつぶやき～

◎大河津分水ができる前の信濃川の洪水◎

なぜ、人々はあれほど大河津分水の建設を願い、そしてこの大河津分水は建設されたのか。何バカなことを言うか、と言われるかも知れない。洪水がしょっちゅう起こり、人々は苦しんでいたからだよ、と言われるであろう。では大河津分水ができる前、信濃川にはどれほど数多くの洪水があったのか。実はその答えは、わが資料館の１階入ったところの展示室に、昔の洪水の地図と年代、場所がちゃんと展示してある。しかし、しかし、である。もしも来館者を案内したとしよう。私は何が言えるであろうか。「ここに示してありますとおり、昔は沢山の洪水があり、人々は苦しんでいました。」で？

以前から気になっていた。この記録から洪水発生の実態について、もっと言えるようにならなければ、と。このお正月色々なことがあった。そして少し考えてみた。

このデータは建設省長岡工事事務所（今の信濃川河川事務所）が編纂した「信濃川大河津分水誌第１集」に載っている。もともとは治水運動家田沢実入が調べ、さらに精査したものであるという。その１８ページから２６ページまでに、大河津分水ができる以前の被害をもたらした洪水が書いてある。そのなかから洪水件数だけを取り上げて少し考えてみよう。

この表には１７２８年から１９１２年までに起こった洪水が取り上げられている。この１８４年の期間、洪水は８０件起こったと書いてある。184 割る 80 の計算をするとたちどころに 2.3 年/件という結果が出てくる。すなわちこの時代、この地域には 2 年とちょっとで洪水が起こっていたのである、で済ましてよいのか？

当時の人になってみよう。江戸から明治の時代、携帯電話はない。いやテレビもラジオもなかったのである。人々はどうやって洪水を知っただろうか。これから田植えをしようと田んぼに立った時、頭の中には人から聞いた話、位しかなかったであろう。

何年と何年に洪水があったといった程度の知識はあったのかもしれない。今仮に 10 年以前までの洪水のあったことは知っているとしよう。そうすると、この洪水データから、任意の年に立って、過去 10 年に何回洪水が起こったのかを調べることはできる。これをデータで調べると、過去１０年の間、毎年洪水があったというのが４回、１回もなかったというのが３回、平均して 4.2 回となる。10 年という期間を 4.2 回で割ると洪水１回は何年おきであるかという数字を出すことができて、これは 2.4 年である。この値は全データの平均値から求めた値と近い。

しかし、この資料の１８ページ、同じものは資料館１階の展示にもあるが、信濃川破堤箇所地名図は洪水のあった地点を示している。それを見ると圧倒的に多いのは中ノ口川と信濃川本流下流部である。ここで述べたような分析は、この地域性も考慮して検討すべきものかもしれない。とりあえずの結論としては、大河津分水ができる以前、この地区では２年ちょっとで被害をもたらす洪水がやってくるという恐怖におびえながら暮らしていた、と言ってよいのではないか。

第3回ガイド研修　～柳津西山地熱発電所 PR 館と滝坂地すべり～

平成 26 年 11 月 16 日（日）8:00～17:00 参加:23 名
場所：①福島県柳津町「柳津西山地熱発電所 PR 館」
　　②福島県西会津町「滝坂地すべり対策工事現場」

再生可能エネルギーとして注目の地熱発電所 PR 館を訪問し、専任のアテンダントからビデオ鑑賞を含め 30 分程で館内ガイドしてもらいました。開発地域の自然環境との兼合いや熱源を掘り当てる難しさ、水垢による配管のつまりなど、特有の課題が多いそうですが、火山国日本のエネルギー源として期待したいです。

滝坂地すべりは、阿賀野川を塞いでしまう恐れのある大規模地すべり。要因となる地下水を排除する 928mのトンネルのあちこちに掘られた排水ボーリング孔から集まる地下水が足元を流れています。地すべりは今もじわじわ続いているそうです。（事務局）

アテンダントによる解説（地熱発電所 PR 館）

庭木の剪定を行いました

好天に恵まれた 11 月８日土曜日、８名が参加して資料館周辺の庭木剪定を行いました。毎年の手入れで形も整い、伸びた枝を処理する程度でスッキリ。剪定クズは毎回大河津出張所から処分してもらっています。（支援部）

交流ツアー企画中/参加者募集します ～宮本武之輔の生地を尋ねる～

松山市の宮本武之輔を偲び顕彰する会との交流事業に参加するツアーを企画中です。詳細検討中の段階ですが参加者を募集します。

日時：H27.4.14(火)～15(水)
予定：14 日(火)シンポジウム、プロ野球観戦
　　15 日(水)興居島訪問（宮本生誕地）
参加費：50,000 円程度（新潟発着航空券他）
定員：15 名程度(先着順)　申込は事務局へ

「大河津分水講演会 2014」を開催 ー三条市ー

12 月 7 日（日）、三条市燕三条地場産業振興センター・リサーチコア・マルチメディアホールに、満員の 190 名の聴衆を集めて大河津分水講演会が開催されました。燕市、新潟市に続く 3 回目の講演会には、来賓として国定三条市長にも参加いただき、ご挨拶を頂戴しました。

早川理事長による講演「大河津資料館友の会の目指すもの」の後、野田徹北陸地方整備局長から「北陸における減災・防災の取組について」と題して、講演いただきました。

いつ発生してもおかしくないとされる首都直下や東海地震、異常気象で狂暴化する洪水、土砂災害、高潮災害などに対するハード対策、減災の為のソフト対策等、様々な災害に対する国交省の取組を実例を交えてお話しいただきました。参加者からは「道路、河川、海岸、砂防と、これほど多様な取組を聞く事が出来、とても参考になった」「大河津分水の改修にも力を入れて欲しい」等の声が聞かれました。

初めて開催した誰でも参加できる交流会には、一般の参加者を含め 50 名ほどが参加。講師を囲んでの賑やかな交流会となりました。（事務局）

講師の野田徹北陸地方整備局長

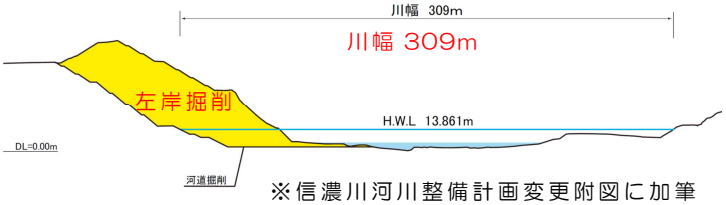
来賓の国定勇人三条市長

聴衆で埋まったマルチメディアホール

分水路河口部の河川整備計画が決定されました

分水路河口部を左岸側に拡幅する信濃川河川整備計画が決定されました。渡部付近から下流側について、現在約 180mの川幅を 309mに広げ、信濃川の安全度向上を図るものです。（事務局）

計画横断図（大河津分水路 7.0k 地点）



※信濃川河川整備計画変更附図に加筆

※新潟日報紙から転載

イベント案内

第 2 回河川文化講演会～信濃川の変遷～

信濃川中流域、下流域における河道の変遷について学び、改めて信濃川と地域の成り立ちについて考えてみましょう。参加者を募集します。

演題：信濃川の洪水と地域の成り立ち
講師：長岡市郷土史研究会顧問　今井雄介さん
日時：平成 27 年 3 月 21 日(土)14:00～15：30
場所：大河津資料館　2F　多目的ホール
※参加申込みは事務局まで。（事業部）

事業部会・支援部会・広報部会

平成 27 年度活動計画を検討する部会を、下記の通り開催するので部会員の出席をお願いします。
日時：平成 27 年 4 月 18 日(土)9:30～11:30
場所：大河津資料館 2F 多目的ホール他
※参加可否を事務局まで連絡して下さい。（事務局）

平成 27 年度第1回理事会

平成 27 年度第 1 回理事会を、下記の通り開催します。詳細は別途お知らせします。（事務局）
日時：平成 27 年 5 月 9 日(土)13:30（予定）
場所：大河津資料館　2F 多目的ホール

お茶を楽しむ会

おいらん道中にあわせ、先着 500 名に抹茶とお菓子を振舞います。お出かけ下さい。（事業部）
日時：平成 27 年 4 月 19(日)
　　10:00～無くなるまで
場所：大河津資料館　4F　展望室

お花見会

分水公園の桜の下で、みんなでお花見をしませんか。
日時：　　（事務局）
平成 27 年 4 月 18 日(土)
　　12:00～（雨天中止）
場所：大河津分水公園
会費：1,000 円
※希望者は事務局まで。

昨年のお花見会

平成 27 年度年次総会

平成 27 年度年次総会を、下記の通り開催する予定です。詳細は別途お知らせします。（事務局）
日時：平成 27 年 5 月 16 日(土)14:00（予定）
場所：大河津出張所　1F ホール

団体会員ご紹介　我ら大河津分水応援隊！

旧洗堰から新洗堰へ

株式会社　東京建設コンサルタント

弊社は、大河津分水の改修の必要性に始まり、改修全体計画、平成４年に着手し平成１２年に通水した新洗堰の設計と施工計画にかかわってきました。

旧洗堰は大正１１年に竣工して以来信濃川下流域を守ってきました。しかし、７０年近く経過し、下流部洗掘による過度な水位差での操作。昭和５７年９月洪水時に右岸アバット部からの漏水など早急な洗堰の改築が必要となっていました。

新洗堰の設計に際し、次の機能が求められていました。①信濃川下流洪水時には洗堰から流さない。②通常は必要流量を流下させる。③西川への分流と洗堰上流の環境保全。④洗堰上下流水位差の効率的な減勢。④魚類の遡上。⑥通船が可能。以上のような機能が必要な中、「悠久なる大河に映えるふるさとの礎」をコンセプトに設計を行いました。

特徴は、「油圧シリンダー自走式」を採用し堰柱上部の機械室をなくしました。また閘門は中流域にはめずらしいマイターゲートの採用、型枠として桜御影石を使用するなど景観面に配慮した安定感のある構造といたしました。施工時には、旧洗堰・閘門および猿橋川の機能を維持しながら施工する必要があったため、猿橋川の流路の付替えから始まったのを記憶しております。完成後１４年が経過し、桜御影石も風格が出てきたと感じる今日この頃です。

大河津分水路はいよいよ抜本改修に着手する段階を迎えています。「越後平野の守り神」として大きな役割をはたしている大河津分水に、皆さんとともに少しでもお役にたてることができればと願っております。

旧可動堰(左)と新洗堰(右)

100 年先も誠実

株式会社　福田組

ＮＰＯ法人信濃川大河津資料館友の会の皆様、初めまして。団体会員の㈱福田組です。

当社は、明治 35 年新潟市で個人企業として生まれ、建築・道路・鉄道・港湾・エネルギー関連施設など、さまざまなプロジェクトに取り組んでおります。

大河津分水との主なかかわりは、平成の大事業と呼ばれた、大河津分水洗堰新築工事をはじめ、洗堰新築Ⅱ期工事、　大河津分水管理棟新築工事など土木、建築の両面で工事に携わらせて頂きました。近年では大河津分水の歴史的重要構造物である旧可動堰の撤去工事にも携わる事ができ、先人たちの工事に対する苦労と治水による安全な暮らしへの想いがたくさん詰まった建造物に触れることができ、工事を請け負う者として大変うれしく、誇りを感じることが出来ました。今後も、この大河津分水はもとより流域の人々の暮らしを守るべき建設事業と地域開発に少しでもお力に成れればと考えております。

最後に、この度当社をはじめとするグループ会社間のきずなを深め、顧客、社会へ発信する約束としてのグループアイデンティティーを定めましたので紹介させて頂きます。これは、福田組が今進めている平成 30 年ビジョンのテーマ「働きたい企業ナンバーワン」、の達成にも寄与する重要なメッセージであり、また主要グループ各社の経営理念、企業風土を勘案しながら作成したものです。

フクダグループスピリット　「100 年先も誠実」

フクダグループの誠実とは、かけがえのない人を愛するように、誠心誠意尽くすことである。
誠実を貫き、大切な人たちとの強いきずなをつくりあげ、そのいのちと暮らしを守る。
我々はグループの総力を結集し、この使命を果たし、100 年先もつなげて行く。

≪編集後記≫古澤さんとは角田山で度々出会います。了解をいただき磐梯山の写真を掲載しました◆資料館リニューアルと新大河津出張所の建物設計の担当は東京建設コンサルタントさん。ご紹介まで◆松山市と燕市はスワローズ、顕彰する会と友の会は宮本でつながりました。交流事業への旅に、いかがですか(i)

〈事務局連絡先〉　〒959-0123　燕市大川津 1215-7
TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682
e-mail ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp　友の会ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/